



まちの教科書

ちびっくうべ

[連載企画] 神戸ぐらしはじめました。 / [〇〇さんの神戸めし] 脇本昌子さん / [世界のデザイン都市] ポルトガル・コビリャン



イラスト：黄麗華

神戸への移住、最近増えているそうです。神戸に越して間もないあの人に、気になる質問をぶつけてみました。

Q. 神戸での新生活いかがですか？

ずっと馴染めるような下町の雰囲気が気に入って物件を決めました。母と一緒に大きな引っ越しをしたけど、今の家は、大阪時代によく利用していた商店街に似ていて、思っていたより寂しくはないですね。ショックなのは、大阪はお店が21時頃まで開いているけれど、神戸はお店が閉まるのが早いこと。休みの日にのんびり起きたらほとんど何もできなかったりすること(笑)。新居は築年数が古いので蛇口が外れたりトラブルもありますが、家を

直していくのがだんだん楽しくなってきた、休みの日はDIYをしています。塗り方がワイルドな壁とか塗りかけの靴箱とか前の住人の方が残した謎のDIY跡が家のあちこちにあって、それをアップグレードしていく予定です。新しいこととしては、母と一緒に使えるように新しいミシンを購入しました。まずはミシンカバーづくりから始めようという計画です。

Q1「こそデザイン都市！」というスポット / Q2コビリャンのまちを舞台にした作品のおススメ / Q3最近、一番聞いたこと / Q4ハマっていること / Q5デザインをひと言葉でいえば

5問でわかる 世界のデザイン都市ガイド

デザイン都市って何？世界の「デザイン都市」担当者に共通の質問を投げかけて解きほぐします。第28回は高齢化が進む旧市街を、デザインとアートで再生したポルトガル内陸部、エストレラ山脈の斜面に位置するコビリャンから。

Vol.28 ポルトガル・コビリャン | Covilhã

- 1 住民の幸福を高めるようにつくられた都市ほど「デザイン都市」であると言えます。わたしが選ぶのは、コビリャンのスマート・アーバン・モビリティ・ネットワークを構成するスペース・構造物群。特にリベラ・ダ・カルペンティラ渓谷にかかる歩道橋や公共エレベーターです。
- 2 ファドの女王として知られるアマリア・ロドリゲスが、1970年のコビリャンの市制100周年記念式典で初めて歌った歌「Covilhã, Cidade Neve(コビリャン、雪の降るまち)」です。
- 3 コビリャンがユネスコ創造都市ネットワークに認定されることで、国際的に高い評価を得ていること。私たちの都市と地域の伝

統、遺産、文化的豊かさが認識され、評価されることは大きな喜びです。

- 4 まちの高齢化に立ち向かい、若いクリエイターや起業家が新たに仕事を始め、続けられる環境や仕組みづくりに尽力してきました。仕組みづくりの重要性は、子どもたちのための空間にも当てはまります。デザイン教育は、創造都市としての仕事の軸であり続けます。
- 5 デザイン=human。デザインは創造的活動であり、本質的に人間的であるだけでなく、デザインは課題解決や特定のニーズに応えることで革新的な解決策やプロセスを提示するからです。

Q. 答えてくれた人

Regina Gouveiaさん  
コビリャン市の文化評議員で、2021年からユネスコ創造都市デザインプロジェクトのコーディネーターを務める。



神戸ぐらしはじめました。

21人目  
岡村有利子さん  
(新開地アートひろば)  
神戸歴：1年2か月(取材時点)



2013年より神戸アートビレッジセンター(現：新開地アートひろば)に在籍。2017年より美術事業担当として展覧会制作に携わるほか、併設のシルスクリーン工房の管理運営を行う。2023年施設リニューアルに伴いギャラリー・アートE担当に。

脇本昌子さんの神戸めし

神戸北野 旭屋精肉店の「すじ玉井」極み」



北野坂にあるレトロなグリーンが印象的なお店の扉を開けると、脇本さんの友人でもある社長の新田さん、スタッフの新野さんが笑顔でお出迎え。今年4月の移転オープンに合わせ、一度は閉店したすじ玉井の店「靴屋」のメニューを店内で復活。脇本さんイチオシのすじ玉井は、神戸牛最高ランクA5のすじ肉のみを使用しており、臭みがなく柔らかいのが特徴。醤油ベースの懐かしい味は新野さんがお母さまより受け継いだ味。「帰りにハムカツを買うのも楽しみ」だそう。

神戸北野 旭屋精肉店  
神戸市中央区山本通2丁目2-13 ルーチェ北野坂1階

13. 脇本昌子さん (株)ウェルビーイング飯急飯神

KIITOプロバティマ  
ネジメント部門所属。  
078 KOB E ファッション部門の実行委員も。前職はアパレルメーカーの広報。



今号のデザイナー | 掛川千秋 カルチャー誌のインハウス・デザイナーとして書籍等の誌面設計や企画・制作に携わる。2024年よりフリーランスに。IG:mineral\_editorial準備中

KIITO NEWSLETTER VOL.041

2024年10月発行

「KIITO NEWSLETTER」は、デザイン・クリエイティブセンター神戸(KIITO)が年4回発行する情報誌です。センターのコンセプトであるクリエイティブな活動を発信していきます。

発行：デザイン・クリエイティブセンター神戸 (KIITO)  
〒651-0082 兵庫県神戸市中央区小野浜町1-4  
TEL: 078-325-2235  
E-mail: info@kiito.jp  
開館時間：9:00-21:00  
休館日：月曜日(祝日、振替休日の場合はその翌日) 年末年始12/29-1/3  
https://kiito.jp/

だれもが知っている「まち」。  
だけど、「まち」について考えてみたことはありませんか。  
そもそも、私たちが暮らすまちの中にはどんな要素があるのでしょうか。  
デザイン・クリエイティブセンター神戸では、架空のまちの中で、仕事をしたり働いて得た給料で買い物をしたり、社会の仕組みや仕事について楽しく学ぶプログラム「ちびっくうべ」を2年に1度開催しています。この機会に「まち」のことをよく知りもっと楽しむための視点を4人の先生から教わりましょう。



1時間目 まちを観察する方法

想像ゲームとツッコミで

デザイナー・アーティディレクター 天宅正  
1978年神戸市生まれ。2017、19年に神戸市クリエイティブディレクターを務める。tenaia.design 代表



未来のまちにとって大切なのは、みなさんひとりひとりが今の身のまわりをよく「観察する」ことだと思います。これに特別な才能やスキルは必要なく、普段から日常に起きる「困りごと」に気づく目(視点)を磨くことが重要です。

「視点を磨く」のは、あなたが暮らしているまちで今すぐにはできないことです。なぜならすでにまちにある仕組みやルールが多くが過去の「困りごと(大なり小なり)」を解決するために先人がつくった“お手本”だからです。すでにまちにあるお手本を元に、過去にどう困りごとがあったのか？ さかのぼっていく想像ゲームをしてみましょう。例えば「道」について。信号やガードレールなどが、なぜ必要なのでしょう？ 車がない時代には車道も信号も不要だったでしょう。そこに車が登場した時に困りごとが発生して、それを解決するために歩道と車道ができて、信号やガードレールも……という風に、その想像自体が正解、不正解なのかは気にせず、まずは自分一人で自由に想像し、ときには仲間と話しあってみてください。わからないことが出てきたら、本やインターネットを使って調べたり、物知りの人に聞いて確かめてみてください。その過程で昔の困りごとにとどまらず、そこから先人が導き出した「解決方法=お手本」が今そこにそのようにある理由が見えてくるはず。理由が見えても、それで終わりにしないでください。なぜなら車が世の中に登場した時のように時代が進むに連れて困りごとにも変わっていきます。昔の「解決方法」が現在のお手本であるならば、あなたが生活している今の困りごとはどんなことでしょうか？ まちを観察することでまだ多くの人が気づいていない困りごと気づき、あなたが未来のお手本をつくることになるかもしれません。私はグラフィックデザインを仕事としているのでまちにある看板やポスター、道路標識などがいつも気になっていて、先の想像ゲームを一人で勝手にしています。「あの看板や道路標識はなにを伝えようとしているのか?」「なんのためにあそこにあるのかな?」などつくられた理由を想像しつつ、さらにそこから「文字が多すぎる!」「この矢印はどこを示している!?!」「日本語だけでなく外国の人がわからない!」などとツッコミを入れて、同時に「文字の色を変える」「矢印を立体的に」「外国語の表記も足す」など解決方法も考えます。あくまでも想像ゲームなので、実際にはそれで解決するというわけにはいかないのですが、この自分勝手な想像ゲームが新たな困りごとをみつれたり、未来のお手本をつくるための練習になるかと思っています。みなさんもまちをよく観察して、ツッコミを入れてみてください。そして解決方法を想像して遊んでみてください。その目(視点)が未来のまちをつくるきっかけにつながるかと私は思います。

# ぼくのわたしの まちの教科書



## 「ちびっこうべ」とは

シェフ・建築家・デザイナーをはじめとする様々なクリエイターと子どもたちがつくる夢のまち。まちでは、約30種類の幅広い職種の仕事体験ができるほか、まちの通貨「キート」でお給料をもらい、お買い物などのプログラムを楽しめます。2012年から2年ごとに開催。



## 関連プログラム「Teen-Urbanism」

子どもたちが「まち」の見かたを学び、実際にまちでフィールドワークを行う全3回のワークショップを初開催。今回の紙面に寄稿いただいたfor Citiesの石川由佳子さん、そして杉田真理子さんに加えて、屋台のプロである下寺孝典さんも講師に加わってもらい、ち

びっこうべのまちオープン日には屋台でその成果を発表しました。サブタイトルは「自分たちの手でまちをデザインしてみよう」。



### 2 時間目 まちをもっと 使いこなす

私は小さいころから「帰り道」が好きだった。それは、時間通り行かなくてはいけない場所や、やらなくてはいけないこともない、とても自由で、自分だけの時間だったからだ。毎回帰る道を変えてみたり、丸い形のものだけを追いかけて進んで見たこともない場所にたどり着いたり、自分だけのヘンテコなルールを決めてまちを遊び場にしていた。

### ささやかな冒険 帰り道の

アーバン・エクスぺリエンス・デザイナー  
石川由佳子  
一般社団法人for Citiesとしてちびっこうべ2024に関連プログラムを講師を務める。

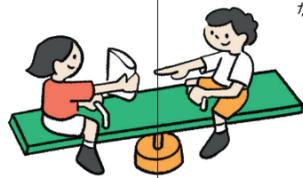


### 3 時間目 まちの公民館って どんな場所？

### 過す地域で楽しく 過ごすために 公民館は

みなさんは公民館をご存知ですか？そして、公民館での仕事とはどんなことをしているのかイメージできるでしょうか？公民館は、人々が健康で楽しく過ごせる地域づくりを行うための機関です。年齢、性別、出身地、障がいの有無など、あらゆる属性を問わず、自らの興味関心に基づいて学ぶことができ、さまざまな機関・団体とつながり取り組むことで暮らしをより良くしていく場です。「つどう」「まなぶ」「むすぶ」という3つの役割があるとされています。

那覇市若狭公民館館長  
宮城潤  
館長を務める若狭公民館は全国で14000あるという公民館から最優秀館に選ばれたことも。



### 4 時間目 仕事の意味から 考えてみる

### 仕事はあそび？

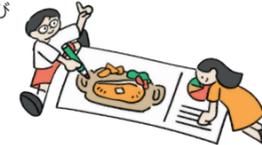
ぼくは「あそび」をつくる仕事をしています。本当は「あそび」をつくる「あそび」なのかもしれません。「仕事とあそびの線引きってなんなの？」と問いを投げかけていくのが、ぼくがやっている仕事のように思います。専門的な言葉で言うと、地域活性やまちづくり、コミュニティデザインと言われる仕事なのですが、いろいろな人が関わりをつくるためのイベントや企画をたくさんつづけています。例えば、障がいのある人もない人も一緒になって参加でき、つくることのできるフェス「ミーツ・ザ・福祉」というイベントや、ショッピングモールの中で行うおにごっこ企画やおつかいのイベントなど。運営側で全部つくって楽しんでもらうのではなく、みんなで一緒につくるということに大事にしています。仕事には楽しさが重要です。あそびは楽しいです。あそびは誰かに指示され、やらされるものではありません。自分たちのまちで楽しくあそびながら生きていくことができるのは、素敵なことなんじゃないかと思っています。だからぼくたちは「あそび」をつくることを仕事にしています。

株式会社ここにある  
ふじもと しょう  
藤本 遼  
1990年生まれ。兵庫県尼崎市出身。在住。株式会社ここにある代表取締役。カレーとたべっ子どうぶつが好き。



自分たちの暮らしや地域、社会をつくっているという感覚はありますか？つくるプロセスに関わることができれば、自分に責任があると思うことができます。やらされるのではなく、自分で引き受けていく。その中に喜びや豊かさ、自分が生きている感覚があるのではないのでしょうか。

いま、社会には「自助」や「共助」が必要だと言われます。それはきっと仕事の先に生まれてくるものではなく、あそびの先に生まれるのではないかというのが、ぼくが仕事（あそび）をやってきた気づきです。自分を振り下げた先に、誰かとつながっていくという出来事が起こる。みなさんはどんなあそびをしながら、自分のまわりを、自分たちの社会をつくっていきますか？ぜひ、ぼくにも教えてください。



### What's on

#### シニア男性コーヒーチーム活躍中！

パンじい！に続く、シニア男性チーム育成で生まれたコーヒーチーム「淹(えん)」。ポートアイランドにあるLANDMADEの上野真人さんを講師に招き、座学からコーヒーの淹れ方までを学び、特訓を重ねて、地域イベントなどに参加しています。たちばな児童館のリニューアル記念イベント出店のお声がけをいただき、利用者向けにドリップコーヒーを振る舞うことになりました。

たちばな児童館  
リニューアル記念イベント



2024年10月31日(木)  
会場：たちばな児童館  
(神戸市中央区通橋3-4-1  
総合福祉センター3階)

### News

#### 「歩く」という行為を通してまちの記憶をたどる

阪神・淡路大震災から30年を迎える2025年に向けて、神戸のまちの記憶を歩いてなぞる「おもしろワークショップ 2024 ver.」を開催します。さまざまな人たちが歩行の実践をしてきた古川友紀さんと、土地の記憶につながるテキストを読み、声に出し、ゆっくりと時間をかけてまちを歩くことで、普段と異なる感覚を開き、過去の出来事に思いを馳せてみます。



災間スタディーズ：震災30年目の“分有”を  
さぐる #3 ワークショップ  
「まちの記憶をなぞり、歩く」  
おもしろワークショップ 2024 ver.

2024年11月23日(土・祝)10:00~18:00  
※小雨決行・荒天中止  
会場：神戸市内  
ナビゲーター：古川友紀(ダンサー、散歩家)  
定員：7名(要事前申込、抽選)  
参加費：1,000円(資料代込)

### Report

#### 子どもたちがチャイを調合&パッケージをデザイン！

子どもの創造性を育む「KIITO:300キャンプ」の取り組みとして、スパイスを効かせたミルクティー「チャイ」を味わって調合し、そのチャイにあわせたパッケージを考える1Dayワークショップを実施。完成したパッケージを渡す相手を想定してどんな気持ちになってほしいのかを想像したうえで、パッケージをデザイン。これまで出会ったことがないスパイスを知り、子どもたちのソウゾウ力がかきたえられる1日となりました。

チャイを味わうパッケージを  
デザインしよう！

2024年8月18日(日)  
会場：KIITO:300  
講師：古市邦人(一般社団法人NIMO  
ALCAMO 代表理事)、蓮蔵直美(ヌリ  
タシ/グラフィックデザイナー)  
対象：小学3年生~中学3年生  
参加費：1,000円

